



北海道

—第3次当別町生涯学習推進計画—

平成21(2009)年度～25(2013)年度

ふれあいから学びの輪へ

川かわ

森もり

人ひと

の恵みのまち...

当別(tobetsu.)



平成19年度レクサンド市長から当別町に寄贈された オブジェ「ダーラウマ」

当別町教育委員会

－目次(contents)－

●目次	1
○発刊にあたって	2
◎当別町民憲章	3
◎当別町教育目標	4
○当別町生涯学習推進計画策定に向けて	5
●自己のライフプラン(表紙)	6
○計画策定に向けてのキーワード	7
○計画策定の体系図	8
○乳幼児期(保育所・幼稚園など)	9~ 12
○少年期(小学校)	13~ 16
○少年期(中学校)	17~ 18
○少年期(高等学校など)	19~ 20
○青年期(大学など)	21~ 22
○成年期	23~ 24
○壮年期	25~ 26
○熟年期	27~ 28
○各期にまたがる事業	
①当別町学校支援地域本部事業	29
②総合型地域スポーツクラブ支援事業	30
○評価・検証について	31~ 32
資料1	
当別町・町民アンケート調査 (町民の生涯学習に関する意識調査)結果から	33~ 38
資料2	
当別町生涯学習推進計画策定委員会設置要綱	39
資料3	
当別町生涯学習推進計画策定委員名簿	40
資料4	
計画策定の基本的な流れ	41
資料5	
当別町生涯学習推進計画策定経過	42
○あとがき	43

発刊にあたって

当別町ではこれまで、平成10年度から5年毎に生涯学習推進計画の策定を行い、生涯学習社会の構築に向けて、方向性を明確にしながら積極的な取り組みを進めてまいりました。

この生涯学習推進計画の第2次計画～とうべつ「まなび」プラン21(5ヶ年計画)～は、平成20年度までを計画期間としております。それに伴い、教育委員会といたしましては、平成21年度から始まる第3次生涯学習推進計画を策定することにいたしました。



近年少子化や高度情報化、科学技術の進展など、急激な社会変化にあつて、生涯学習の必要性やニーズはますます高くなるとともに、世代別の生涯学習の在り方も課題となつてきており、今次計画は、このような世代別生涯学習の方向性を加味しながら、策定したところです。策定に当たりましては、最初に町民対象にアンケートによる生涯学習に関する意識調査を行い、町民の生涯学習に対する考え方やニーズの把握を行いました。次にその結果を参考にし、町内の各種団体関係者や一般公募の方々に構成した生涯学習推進計画策定委員会をスタートさせ、各委員の方々より貴重なご意見やご提言をいただきました。

また、昨年夏には生涯学習60名セミナーを実施し、町内在住の中・高校生と策定委員、及び様々な業種や立場の20代から70代までの町民の方々など総計60名が一堂に集まり、まちづくりや地域づくりなどについて教育を視点にしながら、意見交換し学び合いました。その内容も、計画の策定に大いに参考にさせていただきました。また、住民の意見をできるだけ多く取り入れたいことから、最終的な案作成に向け、町民を対象にパブリックコメントを実施するとともに、その他様々な機会を生かして町民の皆様のご意見をいただけてきました。

お陰様をもちまして、当別町の今後5年間の新しい生涯学習施策の基本的な方向性を示す『第3次当別町生涯学習推進計画(ふれあいから学びの輪へ～川、森、人の恵みのまち～当別)』の完成に至りました。この計画では、町民の皆様がそれぞれのライフステージに合わせ、主体的に学習活動などができる環境づくりを進めること、そして様々な学習を通して習得した知識や技術などを地域活動に活かすことにより、さらに活力ある地域づくりにつなげていただくことなどを目指しております。

今後、この「第3次当別町生涯学習推進計画」に基づき生涯学習の振興に努めてまいりますので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、計画策定にあたり、ご尽力を賜りました策定委員会をはじめとする関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます、発刊のことばといたします。

平成21年3月

当別町教育委員会
委員長 大澤 勉

当別町民憲章

前 章

私たちは、北海道開拓の歴史に、不朽の功業をしるした当別の町民です。

開基100年にあたり、不屈の開拓精神によって築きあげた祖先の偉業をうけつぎ、万心一致、未来の躍進をねがって、この憲章を定めます。

〔昭和45年6月制定〕

- 1 章 自然を愛し 美しく健康なまちをつくります。
- 2 章 力をあわせて産業をおこし 豊かなまちをつくります。
- 3 章 きまりを守り 明るく住みよいまちをつくります。
- 4 章 教養をつみ、かおり高い文化のまちをつくります。
- 5 章 未来を担うたくましい子を育て 力のあるまちをつくります。



町の木(白樺)

昭和45年制定



町の花(かすみ草)

平成2年制定



町の鳥(ふくろう)

平成12年制定



当別町章（昭和45年5月制定）

当別町教育目標

強じんな精神とたくましい身体をつくる。

科学的な知識や技能を身につける。

豊かな情操の涵養と文化の創造につとめる。

自主的な判断力と社会的徳性をつちかう。

明るく豊かで住みよい郷土をきずく。

学校教育推進目標

- ひとりひとりを生かす創意ある学校経営。
- 自ら考え創造する力を育てる学習指導。
- 豊かな心で自ら実践する力を育てる生徒指導。
- 生命を尊ぶ態度と強い身体を育てる健康安全指導。

社会教育推進目標

- 自ら学び自ら活動し伝統を生かし当別二世紀をつくる町民の育成。
- 明日を創造する青少年をたくましく育てる社会教育の推進。
- 健康な心身をつくり明るいまちをつくる社会体育の推進。
- 楽しさと生きがいをつくり育てる社会教育の推進。

当別町生涯学習推進計画策定に向けて

1 計画の性格・構成

第2次当別町生涯学習推進計画が平成20年度をもって終了するのに伴い、当別町の生涯学習の基本的な方向を総合的に示すとともに、町民共通の指針としての性格を持つものとします。

なお、構成については、前回の第2次当別町生涯学習推進計画のように構想・計画編の2部構成ではなく、本生涯学習推進計画が一町民にとって、生涯の時期・段階にわたっての学習イメージ（構想）ができる内容の構成として組み立てました。その構成は、一町民が実際に目に触れて、自己の生涯にわたる学習がライフステージによって理解出来る展開になるように工夫した構成になっています。

2 計画策定の背景・意義

（1）背景

核家族化や少子化等に伴い、家庭や地域社会が変化する中で、家庭・学校・地域と連携しながら、子ども達に豊かな自然体験や社会体験などの機会と場を増やしていくことが必要になってきています。また、当別町においても今後一段と高齢社会へと進むことが予想され、高齢者を含めた新たな施策が必要になってきています。さらには、この時代の流れがはやい中で、多様なメディアや情報に適切に対応し、絶えず新しい知識や技術を習得することも必要になってきています。

（2）意義

豊かで活力ある社会を築いて行くために「人々が、生涯においていつでもどこでもだれでも自由に学習の機会が得られ、その成果が適切に評価される」生涯学習社会を築くことが求められています。こうした生涯学習の考え方を観点として、「当別町の生涯学習」の方向性を明らかにし、社会の変化に対応した計画を策定することが重要であります。

生涯学習とは、「生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行なうことを基本とするものであること。」とされております。

（平成2年1月中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」より）

当別に

暮らす人にとって

生涯にわたる

「まなび」の道しるべ

自己のライフプラン

本計画では、「教育」という手段を用いて、町民が自発的に学び、学んだ成果が地域で生かされる「生涯学習社会」の実現に向けた取り組みを進めていくことを目的としています。

「計画策定に向けてのキーワード」

キーワード1 「ふれあい・かかわり合い」

- ① 異世代交流を促進し相互理解を深め、新しい生活文化の創造と伝承の推進
- ② 人と人とのふれあいを大切にし、人間性豊かな心を育む。
- ③ 「共助」「協働」の精神に基づき、ボランティア活動を促進し、支えあう社会の創造

キーワード2 「体験・育み」

- ① 成長期の子ども段階に応じて養う社会力の育成ー「〇育」
- ② 自然体験、文化体験、社会体験等の活動の充実

キーワード3 「学び」

- ① 現代課題に関する学習機会の充実
- ② 趣味や興味関心、生きがいづくりを目的とした各事業の開催講座の充実
- ③ 各支援情報の収集・提供・共有

キーワード4 「ネットワーク・集い」

- ① 高齢化する地域社会を活性化していくためのネットワークの構築
- ② 女性団体連絡協議会、文化協会、体育協会、子ども会育成連合会等のそれぞれのネットワーク化の再構築

キーワード5 「健康」

- ① 心身の健康の維持、増進や体力の向上
- ② 健康づくりの環境整備や気軽にスポーツを楽しめる環境づくり

キーワード6 「連携・サポート」

- ① 当別町学校支援地域本部事業の推進
- ② 総合型地域スポーツクラブ支援事業の発展

「計画策定の体系図」

当別町のめざす姿
「自然を身近に感じ 活力に満ちた美しいまち 当別」

生涯学習機会の現状

時代の急速な流れ

核家族化・少子化

家庭・地域
社会
の変化

高齢社会

豊かな自然体験や社会体験などの機会と場の必要性

多様なメディアや情報への適切な対応の必要性

新しい知識や技術の習得の必要性

★それぞれの年代にあった、あらゆる
学習の機会と場の必要性★

当別町生涯学習推進計画 基本目標

ふれあいから学びの輪へ

～ 川、森、人の恵みのまち当別 ～ の創造

学校支援

「生きる力」
を育む
学校教育の推進

家庭・子育て支援

「ふれあい・健康」
を育む
家庭教育の推進

社会・地域支援

「生きがい・学び」
を育む
社会教育の推進

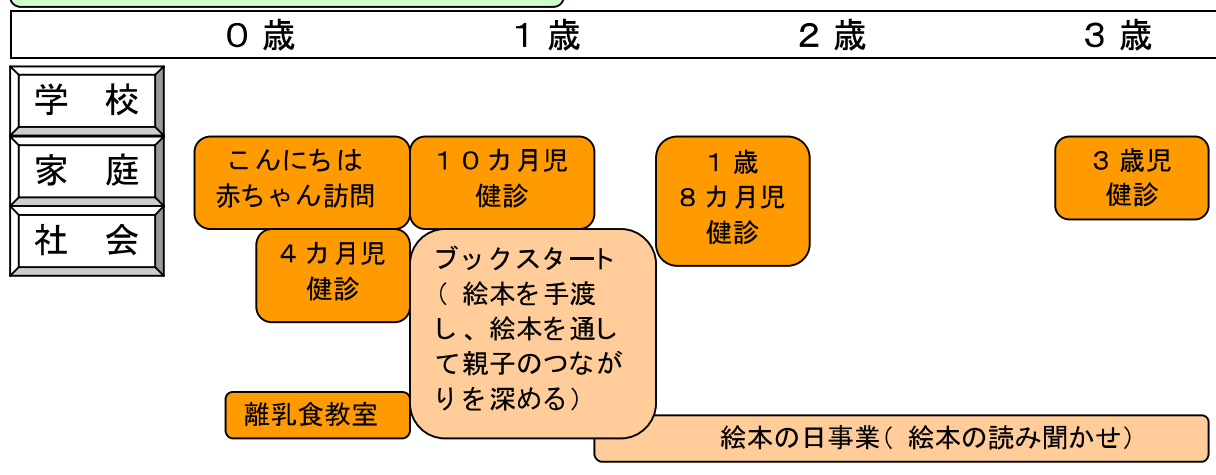
★当別らしい学校・家庭・社会
の連携を重視した「〇育」★

世代・地域の壁を越え、心豊かにともに支え合い、
ふれあいにあふれるひとづくりへ

生まれてから、人と人の「ふれあい」がスタートし「かかわりあい」へ

乳幼児期(保育所・ 幼稚園など)

現在実施している主な事業内容



生涯学習における主な現況と課題

乳児期は、子どもにとって、親とのふれあいがとても大切である。しかし、都市化や核家族化、少子化、地域の人々とのつながりが減少し、社会の大きな変化の中で、家庭の子育てを支えるしくみや環境が崩れている。それが、親の育児不安や子育ての危機につながっているため、子供たちの将来における心身の発達に影響を及ぼしつつある。

幼児期は、子どもの知・徳・体の調和のとれた全人的な発達を促すことが大切である。そのために、子どもの成長・発達の過程、主にその依存と自立の過程における親のかかわり方が重要であり、子どもがそれぞれの時期において獲得していかなければならないことを身につけていくことができるように、親が子どもに働きかけ、これを助けていくことが重要である。さらに子どもにたくましさや物事にいどむ積極的な気概が不足がちであり、子どもの気力やねばり強さ、自発性を培うことは家庭教育における1つの課題でもある。

育児サークル・その他の団体の一覧(平成20年度9月現在)

やんちゃきつず	わんわん きつず	ケンタ	はだかんぼ バナナ	おはなしサークル たんぽぽ
3才児にこにこ 教室	2才児にこ にこクラブ	親子サークル ひよこクラブ	親子わらべ うた もぐらどん	絵本交流会
当別こども 図書館	萌木の会	ママCOM とうべつ		

現在実施している主な事業内容

	4 歳	5 歳	6 歳
学 校		中学生子育て講座(幼稚園児の中学生との交流)	就学時 健康 診断
家 庭		幼児と親のつどい(親子の交流事業)	
社 会		絵本の日事業(絵本の読み聞かせ)	
		絵本に親しむ講演会(絵本を通して親子の交流)	
		親子エンジョイパーク(親子の運動遊び場開放)	

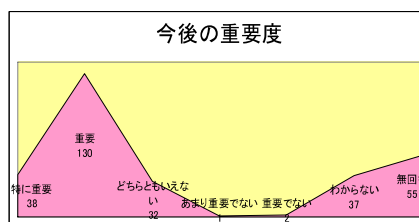
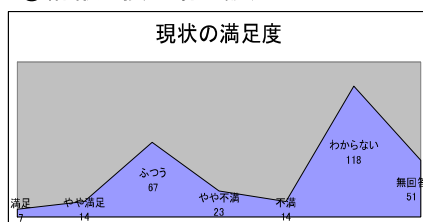
当別町の現状—評価の数値層

<参考>

前回の5ヶ年計画(平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象一回答294名)の結果から抜粋

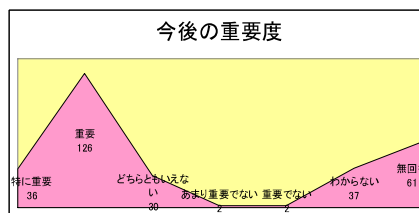
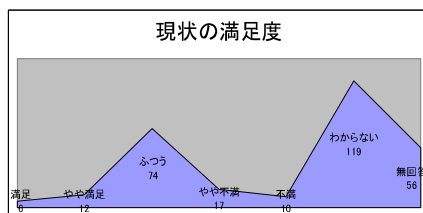
<家庭教育について>

- ①子育てサポート体制の促進 ②地域ぐるみの子育て環境づくり
③情報交換の場の設定



<幼児教育について>

- ①幼稚園、保育所と家庭の連携 ②幼稚園、保育所と小学校の連携



ブックスタート

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 家庭教育、子育ての環境の充実を図りながら、子どもたち一人ひとりを理解し、その特性にあった心身の発達の基礎づくりの支援
- ★ 幼児の情操や創造性を育むとともに、集団生活を通じて社会性を養う基礎づくりを重視し、義務教育に入る準備の支援

そのために大切なことは、

- (1) 家族関係の確立(父親・母親の役割、親子の信頼関係)
- (2) 生活習慣の確立としつけの体得
- (3) 親子の健康増進
- (4) 家庭教育の充実、親子の体験活動の充実
- (5) 地域ぐるみで子どもを育てる環境の整備
- (6) 地域活動への参加(社会生活のルールの体得)
- (7) 地域文化体験(昔話、祭りなど)
- (8) 町内の各子育てサークル等の団体活動の促進
- (9) 動・植物とのふれあい体験
- (10) 自然体験・文化体験の機会の充実
- (11) 絵本・童話の読み聞かせの体験
- (12) 絵や音楽を通しての表現遊びの実践
- (13) 幼保一元化の推進
- (14) 子ども同士のかかわりあいの場の充実、小・中学生との交流の充実
- (15) 安全で快適な環境づくり



絵本の日事業(2008.9.9実施)



中学生子育て講座(保育実習)(2008.7.9・14・15実施)

さらに発展させていきたいことは、

①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進

子育てサークルは、一緒に遊べる仲間、空間、時間を子どもに提供することができる。そして、子育て中の親の仲間づくりができ、育児不安の解消につながる。さまざまな親子に接することで、親子の関わり方を学べ、自分の子育てに活かすことができる。そのような、各子育てサークル等の団体活動の促進を目指す。

②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進

子どもの成長にとっては、集団での遊びや体験を通じて、社会性・協調性・集団性など人間形成の基礎を培うことが必要である。今後も民間活力導入等により、幼稚園・保育所を再編して、子育てに必要な一定規模の集団の形成や子育て環境の促進を目指す。

— 体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ —

体験育

以後継続・発展

- ・ 幼稚園、保育所内行事の、日本の伝統的な実施行事をさらに充実させる。(七夕祭り、餅つき、繭玉かざり、豆まき等からの発展)
- ・ 幼稚園、保育所から大学まで存在する町のメリットを活用し、さまざまな体験の機会を与える。
- ・ やさしさとたくましさを備え、強い人に育てる。

— 本にふれあい、本に学び、本で育つ —

本育

以後継続・発展

- ・ 学習交流センター(児童コーナー室)の活用
- ・ 西当別コミュニティーセンター(図書室)の活用
- ・ 当別こども図書館、絵本交流会、ゆとろのキッズコーナー
おはなしサークルたんぽぽの育児サークル・団体等の活用

○この時期に、子どもに絵本を読んであげるとは、絵本のすばらしさを伝え、本を通して心を育み、親子のふれあいやコミュニケーションを豊かにする。今後も地域の図書施設等を活用し、より一層の子どもの読書活動の推進を図る。

○乳幼児健診の会場で絵本や読み聞かせのアドバイス等の冊子を配ること(ブックスタート)の促進を目指す。

— 交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ —

交流育

以後継続・発展

- ・ 子どもとお年寄りの楽しいふれあいの場を創る。
(当別町ことぶき大学との連携、ゆとろーデイサービスとの連携)
- ・ 地域で子どもを育てるためにさまざまな体験の場を創る。
- ・ 「中学生子育て講座」事業において中学3年生との遊びの交流機会の充実



第12回ことぶき大学「異世代交流」幼稚園児とゲームを通して楽しむ(2007.10.26実施)

自ら学ぶ力の育成や集団生活への適応と他人への思いやりの喚起を

少年期（小学校）

現在実施している主な事業内容

	7 歳	8 歳	9 歳
学 校	少年の意見発表会（小・中・高校生を対象の意見発表会）		
家 庭	子ども会育成連合会（青少年活動の活性化やリーダー養成）		
社 会	親子料理教室（親子の交流事業）		
	当別学講座（北海道医療大学との連携セミナー）		
	ジュニアスポーツチャレンジ（スポーツの実技体験）		
	青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）		
	ジュニアスイミング スクール （水泳の基礎・基本を学ぶ）		



ジュニアスイミングスクール（2008.7.24～27実施）

<参考> 町内の小学校における主な特色ある教育活動

- 国際理解教育の推進
- 書道教育の推進
- うるおいのある環境づくり
- 基礎・基本を大切に確かな学力を身につける学習指導
- 異学年交流をメインにした縦割り班活動
- 活発に行われる読書活動
- 地域の人材を活用したときめきバンク
- 生きる力を育む総合的な学習時間
- 生徒指導を柱にした小中連携事業
- 「ときめき学習」（地域の自然環境や地域の人材を活かした授業、体験的な学習活動）の推進
- 「全校宿泊学習」の効率的な実施
- 「全校登山遠足」の実施
- 「着衣水泳」「不審者対策」の実施と指導の充実、地域との連携の推進
- 「全校スキー学習」の実施
- 「全校朝読書」「漢字の王様」の実施
- 他校との「ふれあい学習」や旅行的・見学行事の推進
- 「緑の少年団活動」などのボランティア活動の推進
- 「小中合同運動会」の推進

現在実施している主な事業内容

	10歳	11歳	12歳
学校	少年の意見発表会(小・中・高校生を対象の意見発表会)		
家庭	子ども会育成連合会(青少年活動の活性化やリーダー養成)		
社会	通学合宿 (小学校5・6年生が6日間、集団宿泊生活しながら学校に通学)		
	当別学講座(北海道医療大学との連携セミナー)		
	ジュニアスポーツチャレンジ(スポーツの実技体験)		
	青少年スポーツの時間(体育館施設の無料開放)		

スポーツ少年団の活動状況(平成20年度4月現在)

「青少年たちが、自由時間に地域社会でスポーツを中心としたグループ活動を行う団体」

競技名	少年団名	対象学年	活動曜日(基本)
サッカー	FC当別U-12	年長児～小学校6年生	火・木・土
	西当別アビスFC	小学校1年生～6年生	火・木・土
野球	当別ウイングス野球少年団	小学校3年生～6年生	月・木・金
	太美ウーリース野球少年団	小学校3年生～6年生	火・水・木・金
ミニバスケットボール	当別ミニバスケットボール少年団	小学校1年生～6年生	火・水・金
	太美ミニバスケットボール少年団	小学校1年生～6年生	火・木・土
剣道	当別町剣道少年団	小学校3年生～中学3年生	水・土・日
	西当別剣道少年団	小学校3年生～中学3年生	火・金・土
柔道	当別町柔道少年団	小学校4年生～高校3年生	火・金
卓球	当別町卓球少年団	小学校4年生～6年生	水・金
スキー	KIDスキーシグチーム	小学校1年生～中学3年生	火・水・金・土

生涯学習における主な現況と課題

少年期(小学校)は、学習・生活・運動習慣を形成する時期であると共に、仲間意識が育ち、思いやる心や他者を尊重する心を培うなど、豊かな人間性や社会性を促す時期である。また、自分の良さや可能性を実感し、自信や自己肯定感を深めながら、併せて自己を律する感覚をしっかりと育て、夢や希望に向かってチャレンジし、目標を持って取り組む時期でもある。

学校教育においては、「生きる力」を育むため、「学力・体力の向上」そして「規範意識や思いやりの心」の育みを一層充実することが期待されており、そのため学校経営や学習指導方法の工夫・改善、条件整備などが求められている。また、確かな学力を培うために、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学習習慣を身につけ、考え、判断するなどの活用能力を育むための条件整備が必要とされている。

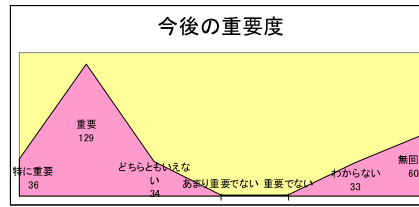
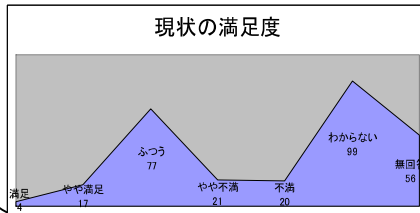
当別町の現状－評価の数値層

<参考>

前回の5ヶ年計画 平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象 一回答294名)の結果から抜粋

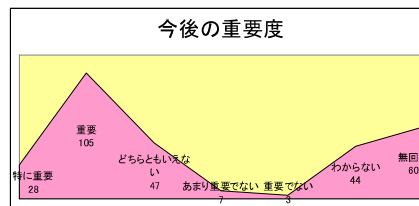
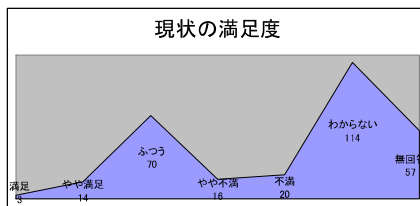
<小・中・高等学校教育>開かれた学校

- ①地域交流による学校づくり ②地域の資源を活用した教育活動
③広報活動の充実 ④防災、安全活動の環境づくり
⑤開かれた学校運営



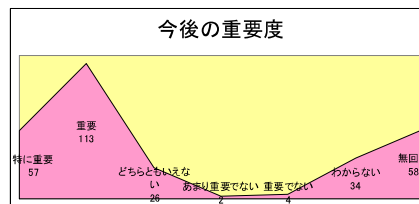
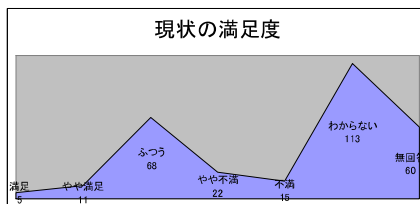
<小・中・高等学校教育>特色ある学校づくり

- ①創意工夫の学校づくり ②学校評価の充実



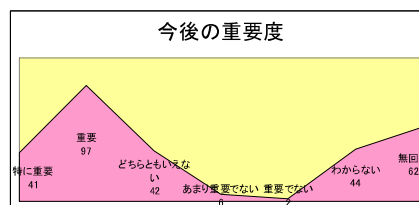
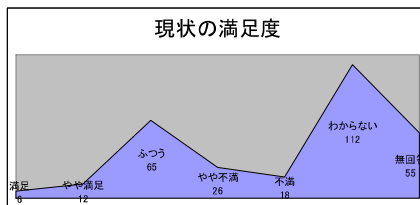
<小・中・高等学校教育>基礎・基本の定着

- ①わかる授業の展開 ②個に応じた指導の充実
③体験的学習活動の促進



<小・中・高等学校教育>特別支援教育の確立

- ①支援体制の充実 ②学習機会の充実



それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 確かな学力の向上と豊かな人間性や感性、健やかな体の育成などの **基礎**づくりや子供たちの生きる力の育みを支援
- ★ 規律ある集団生活や地域社会の活動に積極的に参加する環境づくりの支援
- ★ 人の痛みがわかり他人を思いやる「心の教育」の一層の充実の支援

そのために大切なことは、

- (1) 学習方法・学習習慣の確立
- (2) 学校教育環境の整備づくり（地域の環境や人材などの教育資源を活かす）
- (3) 国際的な感覚や楽しく英語と出会う体験
- (4) 特別支援教育の充実、保健・福祉などの連携強化
- (5) 思いやりの心や規範意識の育成、礼儀の体得、命の大切さ、物の大切さを理解する。
- (6) 家族間での会話、家族とのコミュニケーションの確立、家庭内での役割分担の確立
- (7) 友だち・仲間づくりや思いやりの心や集団生活のルールを体得する。
- (8) ボランティア活動の意義を理解、親子を含めた体験学習の充実
- (9) 情操教育に大きな役割を果たす読書活動の推進
- (10) 望ましい食習慣や食材と生産の結びつきなどの食育の充実
- (11) 規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実
- (12) 登下校時の安全対策や施設の安全確保
- (13) 交通安全マナーの確立
- (14) 環境問題についての意識化と実践
- (15) 関係機関との連携を図った教育相談体制づくり



通学合宿（英語国際交流体験）（2008.7.14～19実施）

さらに発展させていきたいことは、

－ 学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ －

学習育1

以後継続・発展

- 家庭学習の定着
- 読書活動の習慣化
- 食育の推進
- 個に応じた指導体制の充実
- 「早寝早起き朝ごはん」運動など基本的な生活習慣の定着

－ 道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ －

徳育

以後継続・発展

- やさしさ、人を思いやる気持ち、助け合いの気持ちを育む
- 地域で子どもを見守り育てる環境づくり

－ 活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ －

活動育

以後継続・発展

- 総合型地域スポーツクラブの活発化
地域子ども教室の活用
- 友だちをたくさん増やせる場の設定
- 遊びやスポーツを通して丈夫な体づくり



通学合宿（総合型地域スポーツクラブ体験）（2008.7.14～19実施）

意欲の持続、目標を持った主体的な学び、体験を通しての自己の形成を

少年期（中学校）

現在実施している主な事業内容

	13歳	14歳	15歳
学 校	少年の意見発表会（小・中・高校生を対象の意見発表会）		
家 庭	生涯学習セミナー（生徒会役員を中心に町民との意見交流）		
社 会	ジュニアリーダーサークルEZO' Jr（青少年活動の活性化やリーダー養成）		
		中学生子育て講座 （家庭科の時間保育実習で幼稚園児と交流し、子育て中の母親から実体験談を聞く）	
	ジュニアスポーツチャレンジ（スポーツの実技体験）		
	青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）		

<参考> 町内の中学校における主な特色ある教育活動

- 英語と数学でTT授業（チームティーチング授業—学級担当の教師が進める授業に、その教師とチームを組む他の教師が入り、生徒の習熟度などに合わせて担当教師を助力しつつ行う授業の形態。）の実施
- 基礎・基本の定着のための全校的な朝自習の取り組み
- 総合的な学習の時間（1年生—当別の農業（学校農園）、2年—米作り体験、3年職場体験学習）
- 近隣の高校授業体験、ゲストティーチャーを招いての心の教育
- スキー学習、水泳授業、マラソン大会等地域の特性を生かした授業
- 学校農園での労働体験・栽培観察活動（1・2年）
- 国際交流と国際理解学習
- 心に潤いを与え、豊かな情操を養う環境作り
- 全校生徒一斉のクリーン作戦・校内環境整備
- 学校祭における全学級による山車作り・パレード
- 生徒会ボランティア委員会による花壇整備、長寿園訪問、太美駅清掃、友愛セール
- 義務教育9年間を見通した小中連携教育、小中合同運動会、地域清掃・小中交流会の実施
- Bright Time（総合的な学習の時間）表現・体験・自然
- 地域人材を活用した教育（個を生かした指導の充実を図るため外部講師の招聘）

当別町ジュニアリーダーサークルEZO' Jrの活動

当別町ジュニアリーダーサークルEzo' Jrは平成9年に誕生し、現在、中学1年生から高校3年生の48名（平成20年9月30日現在）が所属している。夏至祭やあそ雪の広場など町内の行事への協力、小学生を対象とした通学合宿やリーダー研修でのサポートをするなど様々な地域活動を行っている。

また、北海道や石狩管内のリーダー研修会にも参加し、他市町村とのリーダーサークルとも交流しながら資質向上をはかっている。



当別町子ども会育成連合会リーダー研修会（2008.9.20～21実施）

生涯学習における主な現況と課題

少年期（中学校）は、小学校時期で培った基礎学力等を、学び取る力を土台に主体的に学び、様々な人との関わりを範囲を広げて意欲的な学習、生活態度の育成が課題となっている。体験活動等を通して、望ましい職業観や勤労観を育むとともに、ボランティア活動にも意欲を持たせ、社会貢献にも参加させる環境づくりも必要である。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 確かな学力の向上と豊かな人間性や感性、健やかな体の育成などの基礎づくりや子供たちの生きる力の育みを支援
- ★ 体験活動を通して望ましい職業観や勤労観の育みの支援
- ★ 人の痛みがわかり他人を思いやる「心の教育」の一層の充実の支援

そのために大切なことは、

- (1) 自分自身で、考えや判断するなどの活用能力を育む。
- (2) 学力の向上、規範意識や思いやりの心の育成
- (3) 望ましい食習慣や食材と生産の結びつきなどの食育の充実
- (4) 情操教育に大きな役割を果たす読書活動の推進
- (5) 関係機関との連携を図った教育相談体制づくり
- (6) 特別支援教育の充実、保健・福祉などの連携強化
- (7) 規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実
- (8) ジュニアリーダーの養成や研修の充実
- (9) 継続的な実態把握と課題に対応した生徒指導体制の充実
- (10) 国際社会の一員としての資質の育成
- (11) ボランティア活動による人と人との結びつきの体験
- (12) 現場実習を取り入れた進路指導（職業体験）の推進



少年意見発表会

(2008.11.15 実施)

さらに発展させていきたいことは、

－ 様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ －

学習育2

以後継続・発展

- ・ 様々な学習方法、学習習慣の確立
- ・ 家庭教育の定着
- ・ 情報モラルの教育の充実
- ・ 国際理解教育の推進

－ リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ －

リーダー育

以後継続・発展

- ・ 将来の地域を担う世代のリーダーの養成
- ・ 町内諸事業の運営に関わる意欲の向上
- ・ 他市町村や他地域との交流の充実、北海道や石狩管内事業への積極的参加
- ・ ジュニアリーダーとして、子どもと関わる機会の充実

人生観、社会観の探求、自己の確立、社会的に責任のある態度・行動の習得を

少年期（高等学校など）

現在実施している主な事業内容

	16歳	17歳	18歳
学 校	少年の意見発表会（小・中・高校生を対象の意見発表会）		
家 庭	生涯学習セミナー（生徒会役員を中心に町民との意見交流）		
社 会	ジュニアリーダーサークルEZO' Jr（青少年活動の活性化やリーダー養成）		
	ニュースポーツチャレンジ（ニュースポーツの実技体験）		
	青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）		

生涯学習における主な現況と課題

少年期（高等学校など）は、あらゆる教育活動を通じて、幅広い選択肢の中から自ら考え、自ら判断できる人間を育む教育を一層充実する必要がある。さらには、生徒一人ひとりが社会的に自立する過程を支援する教育が極めて重要であり、生徒個々の自己意識や価値観を育て、個性を伸ばすことのできる多様で柔軟な仕組づくりも必要となる。また、国際化、情報化の進行、若者の就業観の変化など、社会経済の状況の変化に対応した教育も求められている。

<参考> 町内にある高等学校の特色ある方針

- ①地域と連携したボランティア活動
- ②国際理解教育
- ③環境教育
- ④食育教育



当別町生涯学習60名セミナー（2008.8.2実施）「中・高校生と大人で、アイスブレイク（緊張をほぐすゲーム）や意見交換」

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 生きる知恵につながる確かな学力を育み、自立した生き方を支える教養の習得への支援
- ★ 望ましい職業観や勤労観の育みから、自発的な社会参加の準備を支援

そのために大切なことは、

- (1) 親と子の精神的な自立
- (2) 自己を認識し、自己コントロールできる能力の養成
- (3) 職業に関する専門的な知識・技術の習得
- (4) 規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実
- (5) ジュニアリーダーの養成や研修の充実
- (6) 文化・スポーツ活動への参加
- (7) 国際理解学習の促進
- (8) ボランティア活動の意義の理解とその体験

さらに発展させていきたいことは、

－ 地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ －

公共育

- ・ 地域の活動に積極的に参画し、地域社会の一員としての社会的なマナーや道德心を養う。

以後継続・発展

－ ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ －

ボランティア育

- ・ 当別高校と連携し、高校生ボランティアなどの自発的な奉仕・社会体験活動の機会の拡充に努める。

以後継続・発展

人生観、社会観の探求、自己の確立、社会的に責任のある態度・行動の習得を

青年期（大学など）

現在実施している主な事業内容

	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

学 校
家 庭
社 会

フィットネスカレッジ
（体力づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供）

学校開放事業（学校体育施設の開放）

成人式
（新成人に対するお祝い）

生涯学習における主な現況と課題

青年期（大学など）は、成年期への前段階として自己のあり方や生き方、人生の選択決定の時期であり、文化・スポーツなど様々な分野で自己表現し、それぞれの道を進みはじめる時期である。大学への進学率が高まり、教育機関としての大学の役割が大きくなって一方、フリーター人口の増加などの課題が挙げられる。社会体験や勤労体験を通じて社会の中での自己の位置づけを明らかにしつつ、人生の価値を見出していくというプロセスが求められている。

<参考> 北海道医療大学の特色

本学の行動指針 ー21世紀の新しい健康科学の構築ー

本学に対する社会の要請と期待に応えるため、社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向し、常に組織としての自律性・透明性を高めながら、構成員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追求することを、本学の行動指針とする。

本学の理念

- 建学の理念 知育・徳育・体育 「三位一体」による医療人としての全人格の完成
- 教育の理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。（1993年 制定）（1998年 改訂）

教育目標

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
 2. 確かな専門知識および技術の修得
 3. 自主性・創造性および協調性の確立
 4. 地域社会ならびに国際社会への貢献
- （1993年 制定）（1998年 改訂）



当別学講座（2008.1.7 実施）

「1日歯医者さんになって病院を探検してみよう！」

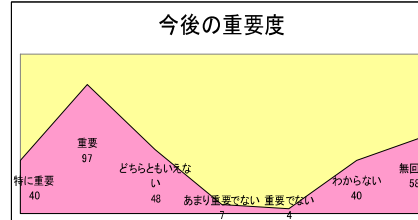
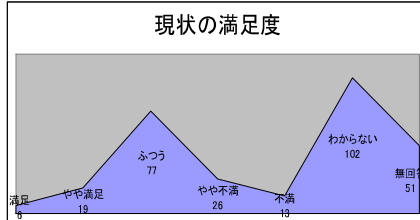
当別町の現状－評価の数値層

<参考>

前回の5ヶ年計画 平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象一回答294名)の結果から抜粋

<青少年教育>

- ①奉仕体験活動の促進
- ②青少年団体活動の充実
- ③放課後・週末体験活動の促進
- ④リーダー養成の充実



それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 心豊かな人生を送るための必要な知識・技術の習得の支援
- ★ 社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育みの支援

そのために大切なことは、

- (1) 価値観・倫理観の確立
- (2) 専門分野の知識・技術の習得
- (3) 社会人としての自立、社会人の権利・義務の認識、社会的なマナーの体得
- (4) コミュニティ活動、地域行事への参加
- (5) 異世代間交流の充実
- (6) 文化・スポーツ活動への参加

さらに発展させていきたいことは、

- ①コミュニティ活動、地域行事への参加
 - ・北海道医療大学との連携による講座の促進や学生との交流や協働事業の充実



当別学講座(2008.9.26実施)「音楽で体と心をリフレッシュ」

- ②文化・スポーツ活動への参加
 - ・青年(大学生)の文化・スポーツ活動の活発化への支援

豊かな家庭生活と地域活動への積極的な関わり、そして自己実現を

成年期

現在実施している主な事業内容

	25歳	→	30歳	→	35歳	→	39歳
学 校	学校支援地域本部事業(地域ボランティアによる学校支援)						
家 庭	子育てを考えるつどい(子育てに関する講演会等の開催)						
	父親を対象とした子育て講座(父親の家庭教育参加を推進する講座)						
社 会	文化協会・文化祭(文化芸術に自主的に参加活動できる団体活動)						
	体育協会・町民体育祭(町民を対象とした各競技の活動)						
	親子エンジョイパーク(親子の運動遊びの場所と用具の提供)						
	フィットネスカレッジ (体づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供)						
	町民スポーツの日・青少年スポーツの時間(体育館施設の無料開放)						
ジュニアスポーツチャレンジ(各種スポーツを親しみ楽しむ機会を提供)							

生涯学習における主な現況と課題

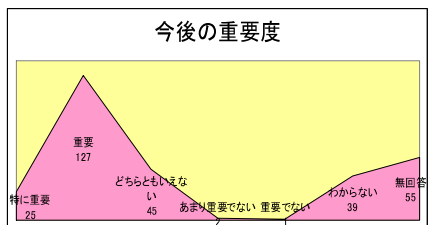
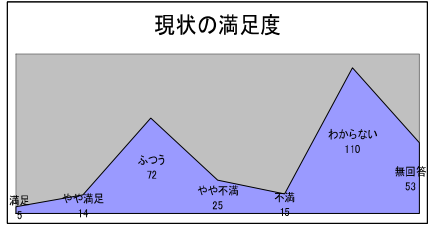
成年期は、就職し職業に従事するなど職業生活へ移行して社会人として活躍する時期であるとともに、家庭を築き、家族とともに豊かな生活を設計し、営む時期でもある。その中で、人間関係の希薄化が進むなか、子育ての課題について学習する機会や場の設定、関係団体等の協力による子育て事業など、家庭に対する地域の支援が求められている。また、地域でのまちづくりや共同体の継承・発展などの社会貢献に取り組む時期でもある。

当別町の現状－評価の数値層

<参考>
前回の5ヶ年計画(平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象一回答294名)の結果から抜粋

<地域教育>

- ①人材の養成 ②ボランティア活動の環境整備
- ③地域活動の支援 ④自然体験情報などの提供 ⑤大学との連携



それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

★ 望ましい人間関係をつくるとともに、生活を充実させるための自己実現を支援

★ 家庭との豊かな家庭生活と地域と連携した子育てを支援

そのために大切なことは、

- (1) 自立した生活と社会との関わりを大切にする。
- (2) 趣味・特技を活かすサークル活動の充実
- (3) コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加
- (4) ボランティア活動や社会福祉への自主参加
- (5) 学校支援やPTA活動の理解と実践
- (6) 防犯・防火・防災活動への参加と交通安全の取り組み
- (7) 妊娠・出産・育児・教育への適切な対応
- (8) 心身の健康保持(心の健康や生活習慣病の予防)

さらに発展させていきたいことは、

- ① コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加
 - ・ 子ども会育成連合会の支援活動、団体・町内会活動等への支援



当子連スーパードッジボール大会(2008.11.9実施)



当子連テニール大会(2008.8.31実施)



- ② 妊娠・出産・育児・教育への適切な対応
 - ・ 学校や地域と連携した子育て支援事業の開催
 - ・ 家庭における父親の参画の啓発、家族間の交流を図る。

- ③ 心身の健康保持(心の健康や生活習慣病の予防)
 - ・ 「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高める。
 - ・ 運動教室、生活習慣病を予防するための栄養教室、健康相談の開催



総合型スポーツクラブ(スナックゴルフ講習会)(2008.6.28・7.26実施)



フィットネスカレッジ(2008.11.6・13実施)



すべての人々が共に支えあいながら地域の教育力の再生・向上を

壮年期

現在実施している主な事業内容

	40歳	→	50歳	→	60歳			
<table border="1"> <tr><td>学 校</td></tr> <tr><td>家 庭</td></tr> <tr><td>社 会</td></tr> </table>	学 校	家 庭	社 会	学校支援地域本部事業(地域ボランティアによる学校支援)				
	学 校							
	家 庭							
	社 会							
	地域子ども教室(わくわくキッズ)事業							
	父親を対象とした子育て講座(父親の家庭教育参加を推進する講座)							
	当別学講座(北海道医療大学との連携セミナー)							
	女性団体・女性のつどい(女性の自立を促進するための団体活動)							
	文化協会・文化祭(文化芸術に自主的に活動できる団体活動)							
体育協会・町民体育祭(町民を対象とした各競技の活動)								
フィットネスカレッジ (体づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供)								
青少年スポーツの時間(体育館施設の無料開放)								

生涯学習における主な現況と課題

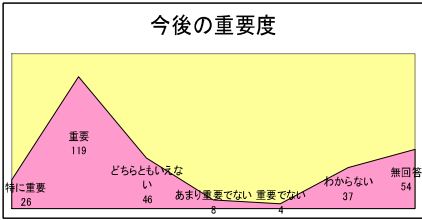
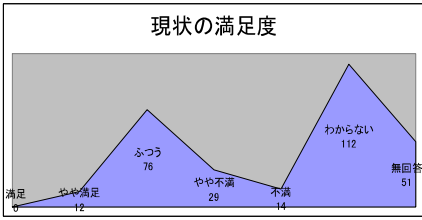
壮年期は、これまでの経験をいかしながら主体的に自らの個性や能力をのばし、さまざまな能力の向上に努めるとともに、家庭にあっては、円熟期に向けて有意義に過ごすライフプラン・生きがいづくりに取り組む時期でもある。また、地域では次代の地域の担い手の育成に携わるなど、社会の形成者として重要な役割と責任を担う時期でもある。特に大人と子どもの結びつきを強め、地域の教育力再生・向上が求められている。

当別町の現状—評価の数値層

<参考>
 前回の5ヶ年計画(平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象一回答294名)の結果から抜粋

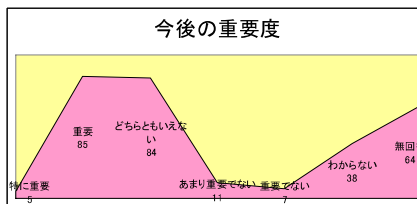
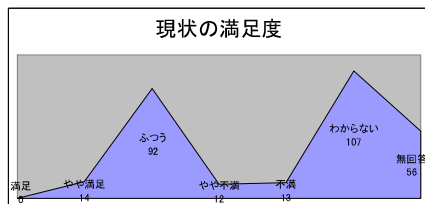
<成人教育>

- ①リカレント教育(社会に出てからも教育を継続することを可能にしたシステム)の充実
- ②自主的講座の開催 ③女性団体活動への支援
- ④高齢者・障がい者の学習機会の充実



<芸術と文化>

- ①豊かな芸術文化を育む環境づくり ②文化活動団体の紹介紙の作成
③サポート体制の充実



それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 生活を充実させるための自主的な学習活動の推進や個々の能力や技術を地域で生かす環境の整備の支援
- ★ 一人ひとりが心身豊かに相互に支え合い、自立性の高い地域をつくる意識向上の支援
- ★ 子どもの考えや気持ちを理解し、地域で子どもを守り育てる地域の教育力向上の支援

そのために大切なことは、

- (1) 趣味・特技を活かすサークル活動の充実
- (2) 青少年の健全育成を推進する全町的な取り組み
- (3) 心身の健康保持（心の健康や生活習慣病の予防、健診等の促進）
- (4) ふるさと（とうべつ）の見直しと再発見
- (5) ボランティア活動の実践
- (6) 伝統芸能の継承と地域文化・歴史の確認・保存
- (7) 安全な生活、防犯・防火・防災活動（地域活動、巡回活動等の協力等）の実践
- (8) 後継者の育成、習得した専門的知識・技能の社会への還元
- (9) 町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用
- (10) 地域人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大
- (11) 地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進

さらに発展させていきたいことは、

- ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大
- ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進
 - ・ 当別町学校支援地域本部を主体として、地域教育協議会議の開催、学校支援ボランティア募集、地域コーディネーターの配置、人材バンクの活用を図る。
- ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施
- ④安全な生活、防犯・防火・防災活動（地域活動、巡回活動等の協力）の実践
 - ・ 「当別」朝の15分間運動の周知、促進



石狩管内女性大会<防災をテーマ>（2008.9.3実施）図上防災訓練（DI G）当別町担当

家庭や地域と積極的に関わり、趣味特技を磨き、生きがいを

熟年期

現在実施している主な事業内容

	61歳 → 70歳 → 75歳 → 80歳以上
学校	学校支援地域本部事業(地域ボランティアによる学校支援)
家庭	地域子ども教室(わくわくキッズ)事業 高齢者学園「ことぶき大学」(高齢者による生きがいづくりの学習機会)
社会	当別学講座(北海道医療大学との連携セミナー) 女性団体・女性のつどい(女性の自立を促進するための団体活動) 文化協会・文化祭(文化芸術に自主的に参加活動できる団体活動) 体育協会・町民体育祭(町民を対象とした各競技の活動)
	フィットネスカレッジ (体づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供)
	町民スポーツの日・青少年スポーツの時間(体育館施設の無料開放)
	ジュニアスポーツチャレンジ(各種スポーツを親しみ楽しむ機会を提供)

生涯学習における主な現況と課題

熟年期は、生きがいをもって、自らの人生を豊かに送れるように、生涯にわたる自分づくりから円熟した人生を送る時期である。さらには自らの健康・体力などの身体的な課題など適切な対応が求められる時期でもある。

また、家庭や社会とのかかわりを大切に、第二の人生に生きがいをもちながら、豊かに送れるように人や地域社会とのかかわり、自己を生かし、次世代を担う人づくりに携わりながら学び続けると同時に、うるおいのある地域づくりに貢献することも求められている。

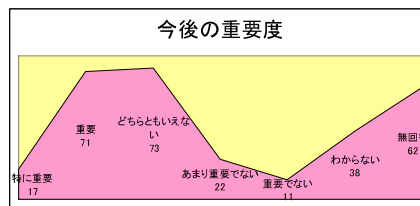
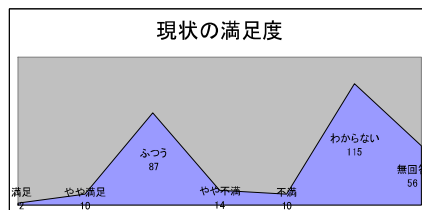
当別町の現状—評価の数値層

<参考>

前回の5ヶ年計画(平成15年度より策定)をもとに平成20年1月に実施した町民アンケート(1000名対象—回答294名)の結果から抜粋

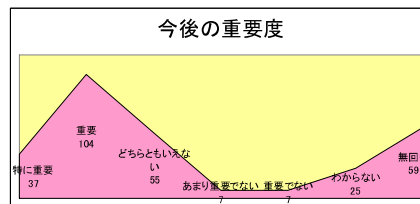
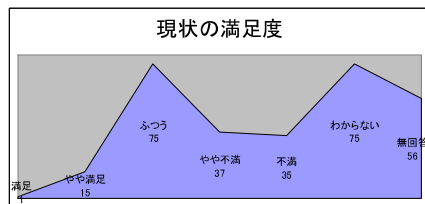
<歴史と伝統>

- ①歴史文化の継承 ②歴史マップなどの作成



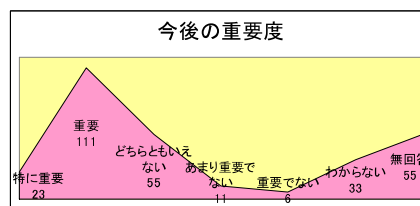
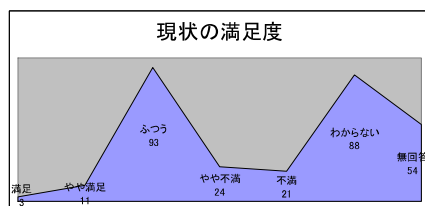
<図書館機能の充実>

- ①図書館サービス網の整備 ②書誌データの作成
- ③図書の充実



<生涯スポーツ>

- ①総合的なスポーツ推進体制の検討 ②スポーツ団体活動の紹介
- ③学校開放事業の拡充 ④サポート体制の充実



それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 健康の保持・増進と生きがいづくりの支援
- ★ これまで蓄積された経験をいかした次世代連携、地域づくりへの支援

そのために大切なことは、

- (1) 福祉制度の理解と活用
- (2) 地域の歴史や文化の伝承
- (3) 同世代・異世代・地域間の交流の活発化促進
- (4) スポーツ活動に親しみながら体力づくりの活動
- (5) 交通ルールの再認識、防犯・防火・防災活動の実践協力
- (6) 生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元
- (7) 町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用
- (8) 地域人材を活用した人材バンク登録制度(とうべつ知恵袋)の拡大
- (9) 地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進
- (10) ゆとりやうるおい等、心の豊かさにつながる芸術・文化に親しむ活動

さらに発展させていきたいことは、

- ①地域の歴史や文化の伝承
 - ・ 歴史研究専門員や歴史ボランティアなどの積極的な活用
- ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元
 - ・ 当別町子ども会育成連合会「新春子どもカルタ大会」支援
 - ・ 地域子ども教室(昔あそび、囲碁教育、折り紙教育等)支援
 - ・ 伝統文化子ども教室支援



当別町歴史ボランティア学習会
(2008.2.28 実施)

○各期にまたがる事業

① 当別町学校支援地域本部事業

当別町学校支援地域本部事業とは、

地域の方々が資格や特技・趣味等を生かしたり、子どものために何か支援したい気持ちを持っている方々が学校の活動を支援していくことにより、学校教育の一層の多様化・活性化を図ることを目的とした“地域につくられた学校の応援団”事業です。学校の求めと地域の力をマッチングしてより効果的な学校支援を行うことにより教育活動のますますの充実を目指します。

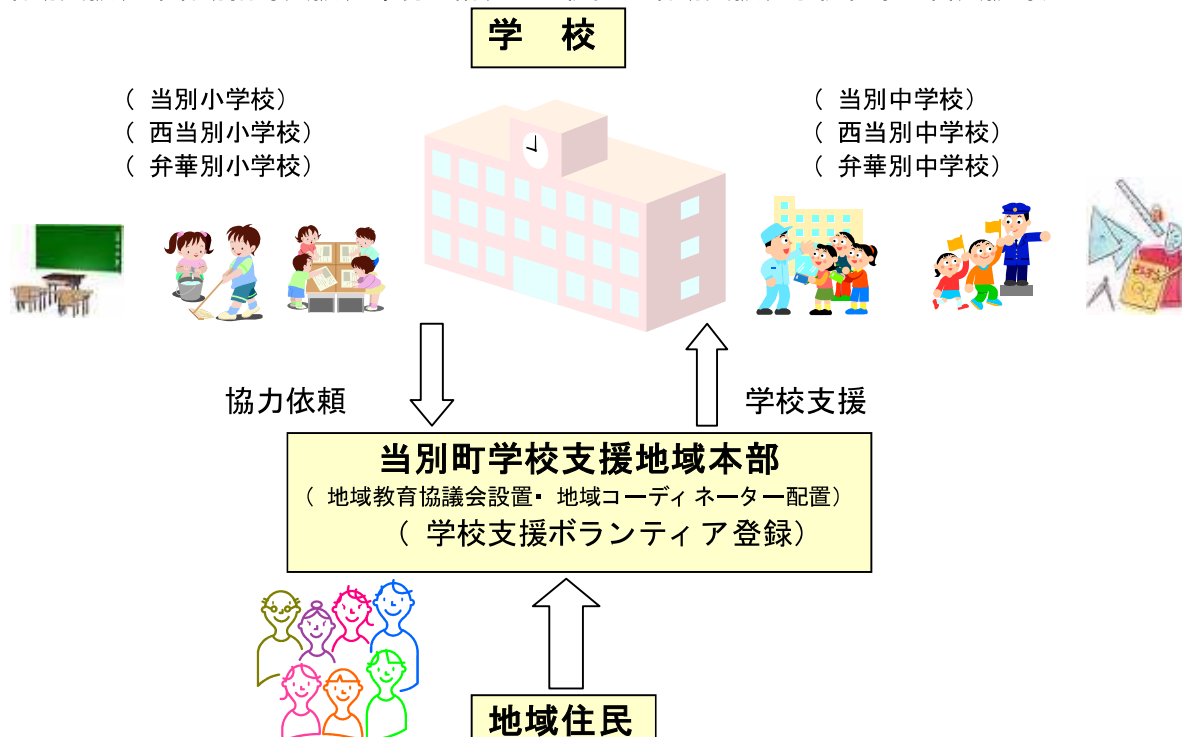
社会の現況と背景

- ・ 社会の複雑多様化
- ・ 子ども一人一人に対する決め細やかな指導の必要性
- ・ 家庭や地域の教育力低下

これからの当別町学校支援活動の方向性

学校支援ボランティア活動及び内容については、支援する地域の方々が無理なくできるときにできることを学校の依頼に基づき実施することにより、継続的持続可能な取り組みとして推進していきます。

(学習活動支援、部活動指導支援、環境整備、登下校安全活動支援、学校行事運営支援等)



学校での目指す効果

(教育活動の充実)

- ・ 学校支援ボランティアのもつ専門性を生かすことによる学習意欲の向上
- ・ 地域住民の学校理解
- ・ 子どもと向き合う時間の確保に伴う児童生徒への決め細やかな指導の充実

学校・地域の共通の願い

未来を担う子ども達をすこやかに育む

- ・ 子ども達の学びを深める
- ・ 思いやりや感謝の気持ちを育む
- ・ 地域の人達に支えられ守られていることや社会の一員としての自覚を促す

地域での目指す効果

(地域教育力の向上)

- ・ 自らの経験や学習成果を発揮することで、生きがいづくりと自己実現につながる
- ・ 社会参加活動の場がえられる
- ・ 地域社会の活性化
- ・ 地域ぐるみで子どもを育てる気運の高まり

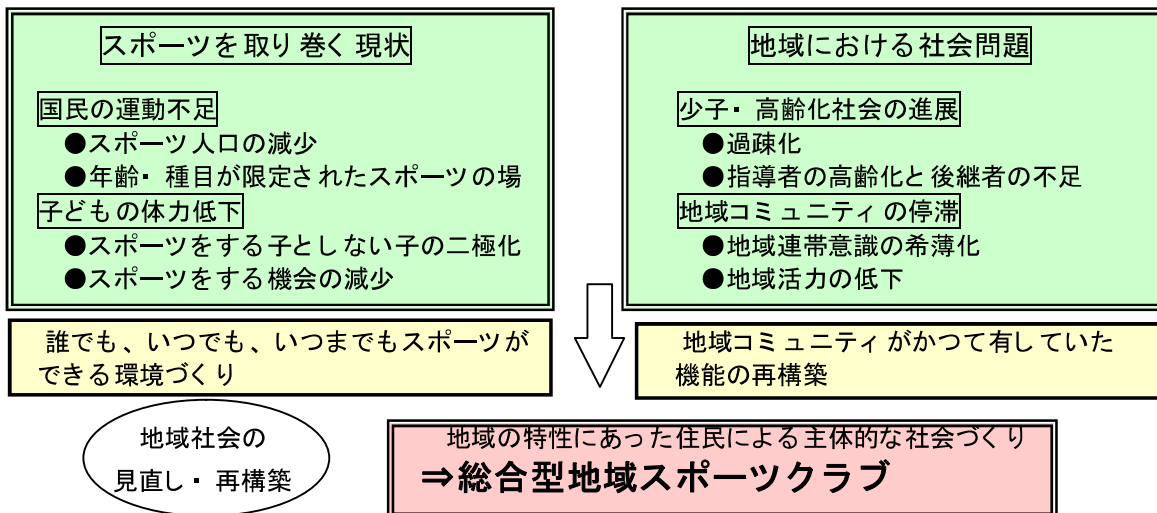
② 総合型地域スポーツクラブ支援事業



総合型地域スポーツクラブとは、

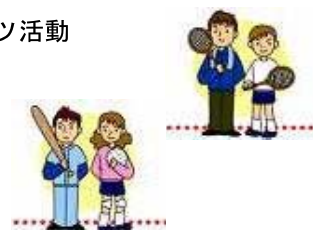
平成12年度に策定された国の「スポーツ振興計画」の中で、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境整備のための重点施策として「平成22年までに全国の各市町村において、少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成」という目標が掲げられ、平成16年度からは文部科学省委託事業「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」を都道府県体育協会の協力のもと、全国展開しています。

総合型地域スポーツクラブの背景



総合型地域スポーツクラブのメリット

- 1) スポーツをする機会の増加によるライフステージに応じたスポーツ活動
- 2) 好きなレベルで体験できる専門的な指導を含めた一貫指導
- 3) 地域コミュニティの形成による地域の活性化と情報の発信拠点
- 4) 地域教育力の向上による青少年の健全育成
- 5) 親子や家族、世代間の交流と高齢者の生きがいづくり
- 6) 町民の健康水準の改善と医療費の削減



当別町の現状は、

平成20年度から日本体育協会の育成クラブ委託事業を受け、平成22年度のクラブ設立へ向けて当別町体育指導委員会を中心に設立準備委員会を立ち上げ、準備活動中。

設立準備委員会のなかでサポート体制を組み、密接な連携のもと、地域住民が主体となるクラブ設立へ向けた取り組みを支援しています。

現在の活動内容

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1) クラブづくりに関する情報収集 | 5) 設立に向けた運営体制づくり |
| 2) クラブづくりのための会議開催 | 6) プレ事業の実施 |
| 3) 町民や組織、団体への協力の呼びかけ | 7) クラブ理念の明文化と共通認識の形成 |
| 4) 会員の募集 | 8) 広報活動 |



今後の展開は、

みんなで創るスポーツを通じた地域のコミュニティ。

総合型地域スポーツクラブとは、「誰でも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツを」楽しめる地域のコミュニティです。

住民のアイデアによって自主的に運営され、地域の特徴を活かし、地域のニーズにあったクラブを地域住民の手で創ります。

みんなが楽しめるいろんな関わり方。

参加する住民の一人一人がクラブにおいては、運動・スポーツをする側だけではなく、指導する側や運営する側と、色々な関わり方を持ち、世代を超えてクラブを中心に人と人が豊かにつながり合う地域の新しいコミュニティを創ります。

評価・検証について

Why ?

なぜ、評価が必要なのか？重要なのか？

- ①5ヶ年計画であることを考えると、1年ごとの検証・見直しが必要である。
- ②一般的に前例踏襲という風潮がある中で、今後よりよい成果を生むためのステップとして、分析・判断などの評価がとても重要である。
- ③行政側のみが単独で行う評価ではなく、第三者評価が入ることにより、評価がより明確化される。ただし、誰もが関わりやすい評価の仕方・検証を重視

Who ?

だれが、評価をするのか？

- ①事業を行った職員、機関、団体あるいは担当者＝自己評価
- ②各年度毎に社会教育委員＝他者による評価・第三者評価

What ?

なにを、評価するのか？

- ①生涯学習推進計画の各期くさらに発展させていきたいこと>を中心に評価・検証する。
- ②各事業の結果（各事業の参加者数や参加アンケート等を参考）を評価する。 ※1
- ③各事業の成果や効果（各事業における波及効果等を参考）を評価する。 ※2

When ?

いつ、評価するのか？

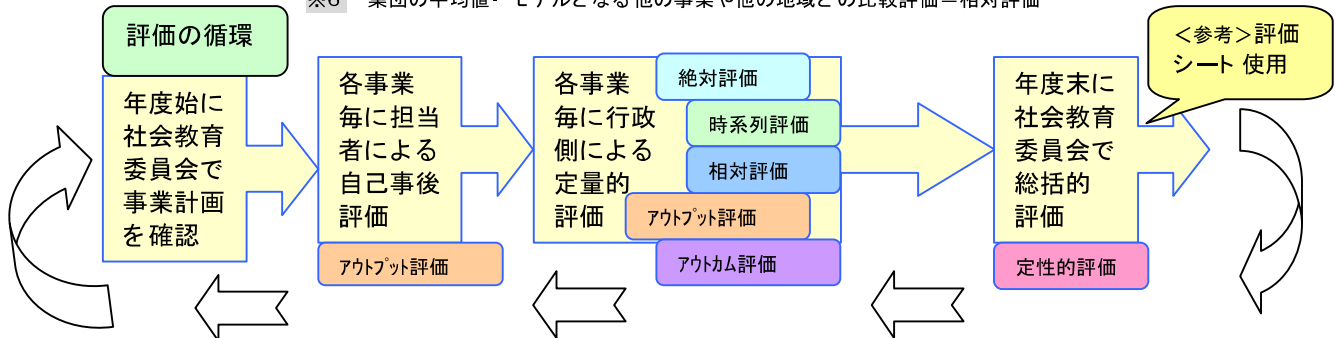
- ①各事業終了後に事後評価する。
- ②総括的评价を年度末の社会教育委員会にて行う。
- ③結果を、教育委員会HPに掲載し、新年度に生かす方策を検討する。

How ?

どのように、評価するのか？

- ①<参考>評価シートを使って、質・量(※3)をとらえての意見交換をし、評価・検証する。
- ②解釈の基準(3つの評価を前提にしながらの、総合的な意見交換を行う。)
 - (1)一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価 ※4
 - (2)過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価 ※5
 - (3)集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価 ※6

- ※1 事業の結果について評価＝アウト評価 ※2 事業の成果や効果について評価＝アウトカム評価
 ※3 質をとらえての評価＝定性的評価、量をとらえての評価＝定量的評価
 ※4 一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価＝絶対評価
 ※5 過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価＝時系列評価
 ※6 集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価＝相対評価



<参考引用>北海道立生涯学習推進センター調査研究報告書第22号(平成18年3月発行)
 社会教育行政の評価に関する調査研究 ～ 定量的評価の指標について～

当別町生涯学習推進計画＜参考＞評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）
理解されている範囲で、現状の満足度・今後の重要度の評価の数値を、当てはまる数字に○印を付ける。

現状評価・今後の重要度 設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン （各期さらに発展させていきたいこと）	現状の満足度					今後の重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	特に重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
＜乳幼児期（保育所・幼稚園など）＞ ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜少年期（小学校）＞ ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜少年期（中学校）＞ ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜少年期（高等学校など）＞ ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜青年期（大学など）＞ ①コミュニティ活動、地域行事への参加 ②文化・スポーツ活動への参加	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜成年期＞ ①コミュニティにおける地域活動への積極的な参加 ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 ③心身の健康保持	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜壮年期＞ ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大 ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進 ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施 ④安全な生活、防犯・防火・防災活動	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
＜熟年期＞ ①地域の歴史や文化の伝承 ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
合計										

資料 1

平成20年1月実施 2月集計

当別町・町民アンケート調査(町民の生涯学習に関する意識調査)結果

3つのポイント

- ※ 生涯学習のイメージは、「自分自身の生活を楽しみ、心を豊かにする」学習のイメージ
- ※ 「何らかの生涯学習を経験している」という意識を持っている人は4割
- ※ 生涯学習の情報をどのように町民へ周知するか。

【調査対象】 当別町在住の満18歳以上(高校生以外)の1,000人(無作為)

【調査方法】 郵送

【調査時期】 平成20年1月18日～2月8日

【回答者数】 294名(未回答者数 699名 内容不備者数 7名)

【提出率】 29.4%(前回第2期 31.5%)

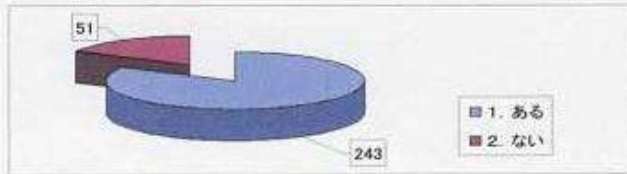
性別	男性	女性	合計
人数	133	161	294
%	45%	55%	100%

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
人数	0	20	34	57	62	72	49	294
%	0%	7%	12%	19%	21%	24%	17%	100%

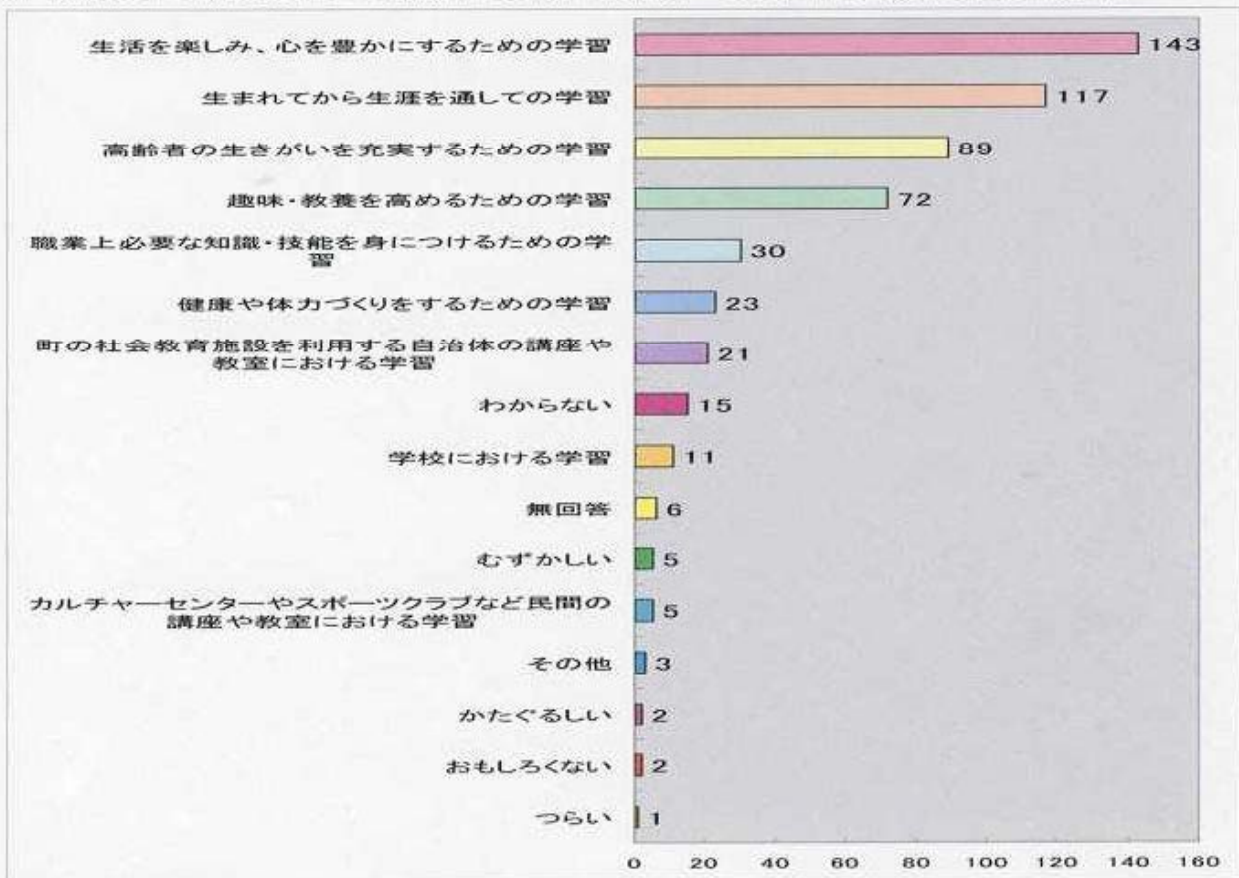


生涯学習について

1. あなたは「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。



2. あなたは「生涯学習」という言葉からどのようなイメージを持ちますか。(回答2つ以内)



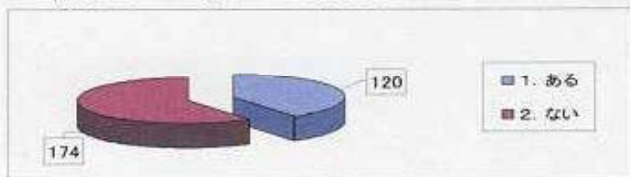
その他（具体的に）

- ①個人または講座での仕事や趣味・教養を深めるための人間性を豊かにする学習
- ②自ら学ぶものなので楽しむのが一番優先されるはず
- ③人間としての資質の向上を進めるための1つの手段

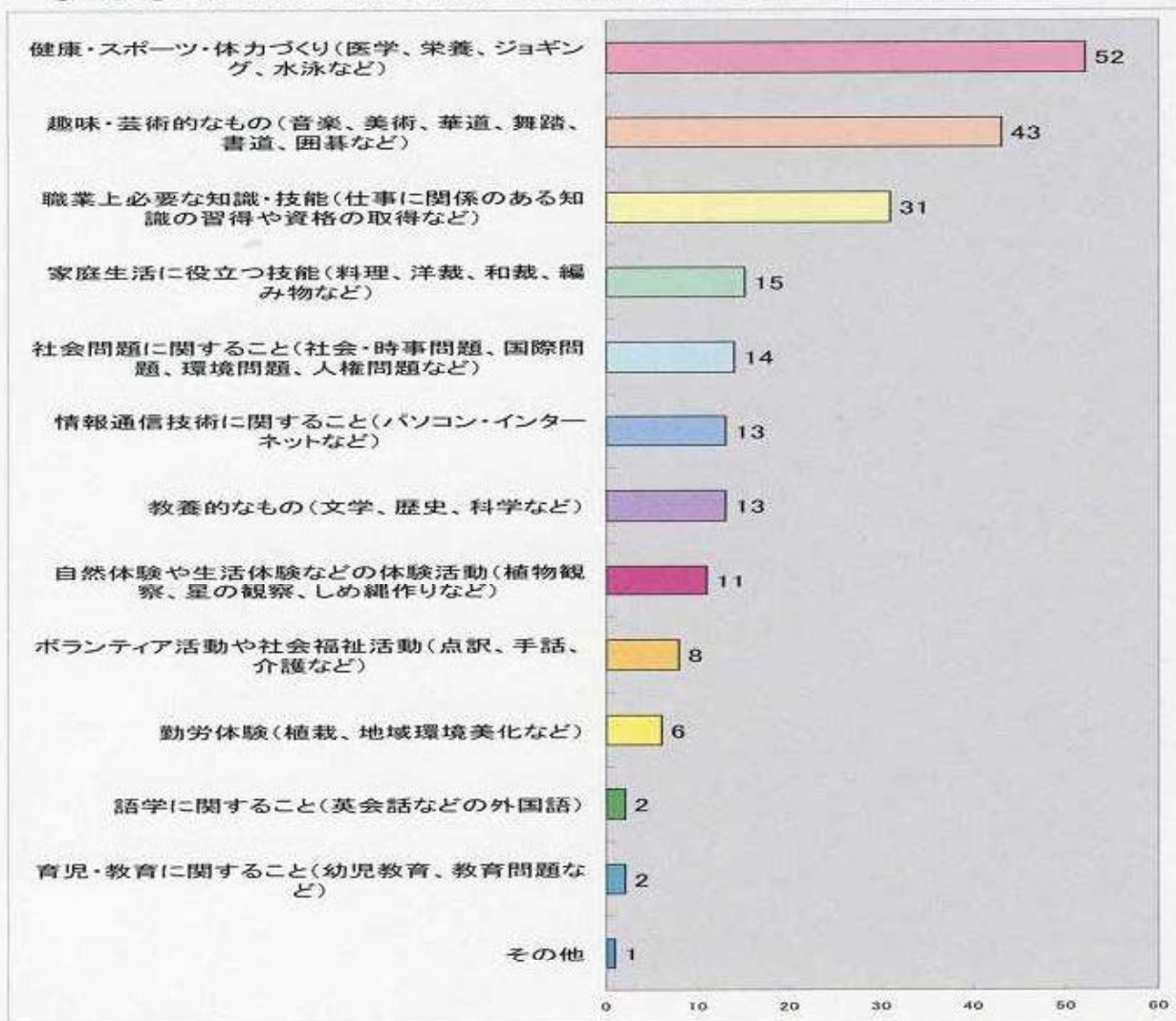
※

生涯学習とは、「生活を楽しみ、心を豊かにする学習」と捉えている人が多い。また、自分自身が「生まれてから生涯を通しての学習」というイメージをしている人も多い。

3. あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習をしたことがありますか。



①「ある」と答えた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。（回答2つ以内）



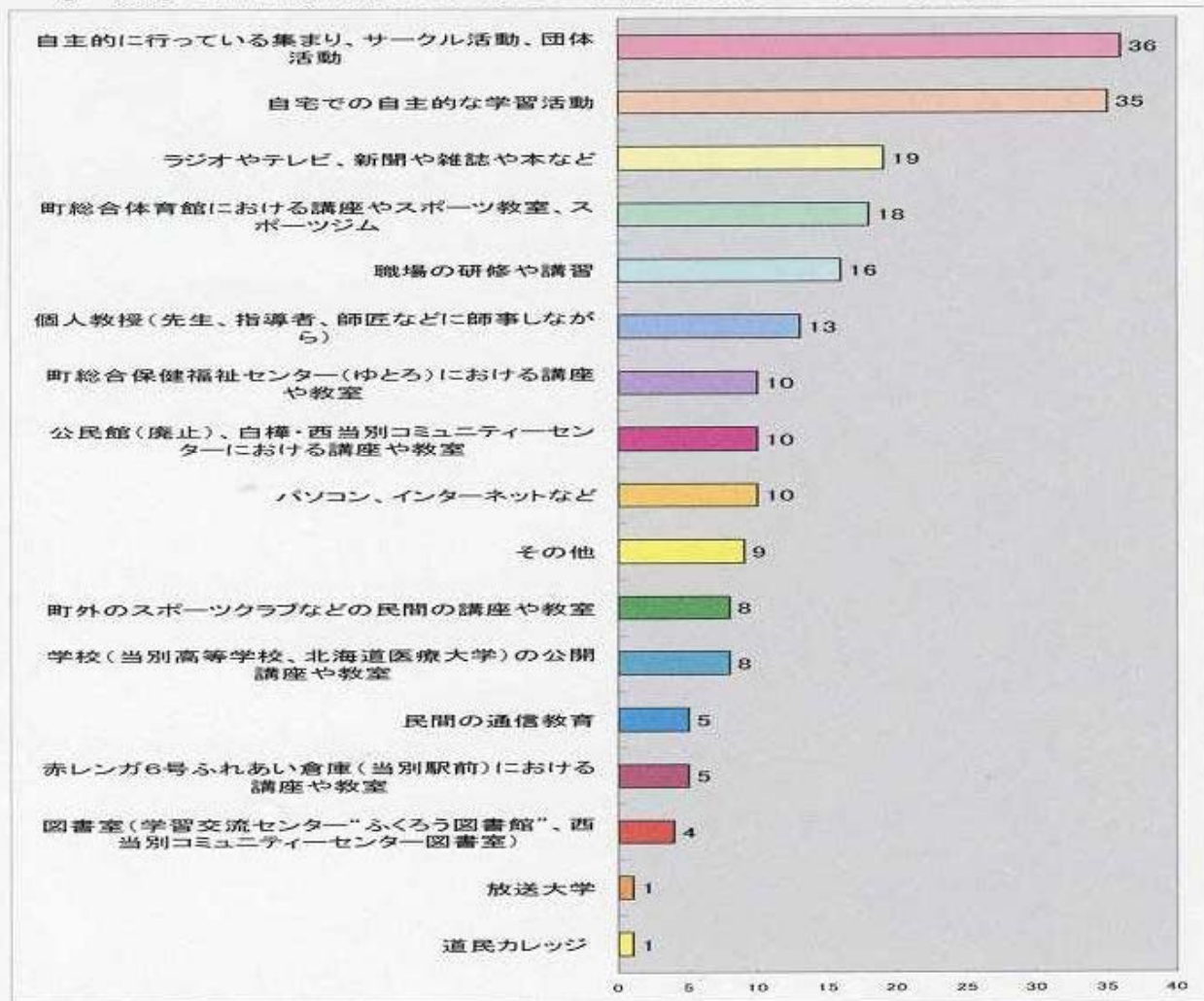
その他(具体的に)

①地域の人たちとうまくつきあいができるように心がけること。

※

1年間で生涯学習をしたという経験がある人は4割、経験がない人は6割である。経験がある人の中では、それぞれ「健康やスポーツ、体力づくり」をされている人が多い傾向にある。

②「ある」と答えた方にお聞きします。どこで生涯学習を行っていますか。（回答2つ以内）



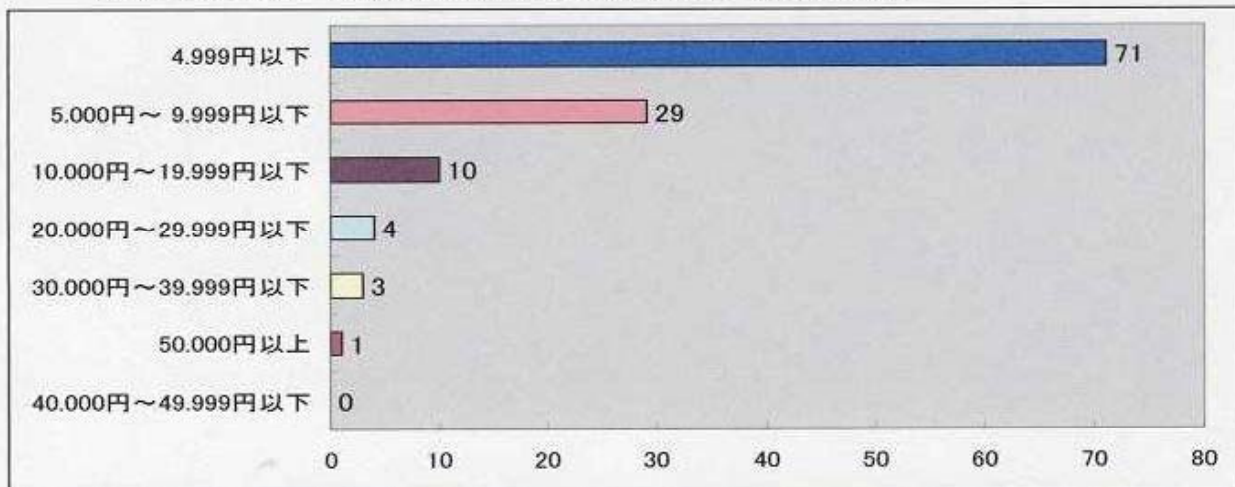
その他（具体的に）

- ①北海道立近代美術館での絵画鑑賞
- ②町総合体育館
- ③職業訓練介護労働安定センター
- ④食品衛生協会等
- ⑤札幌市の各施設
- ⑥予備校
- ⑦町外の畑
- ⑧スターライト会館
- ⑨札幌市

※

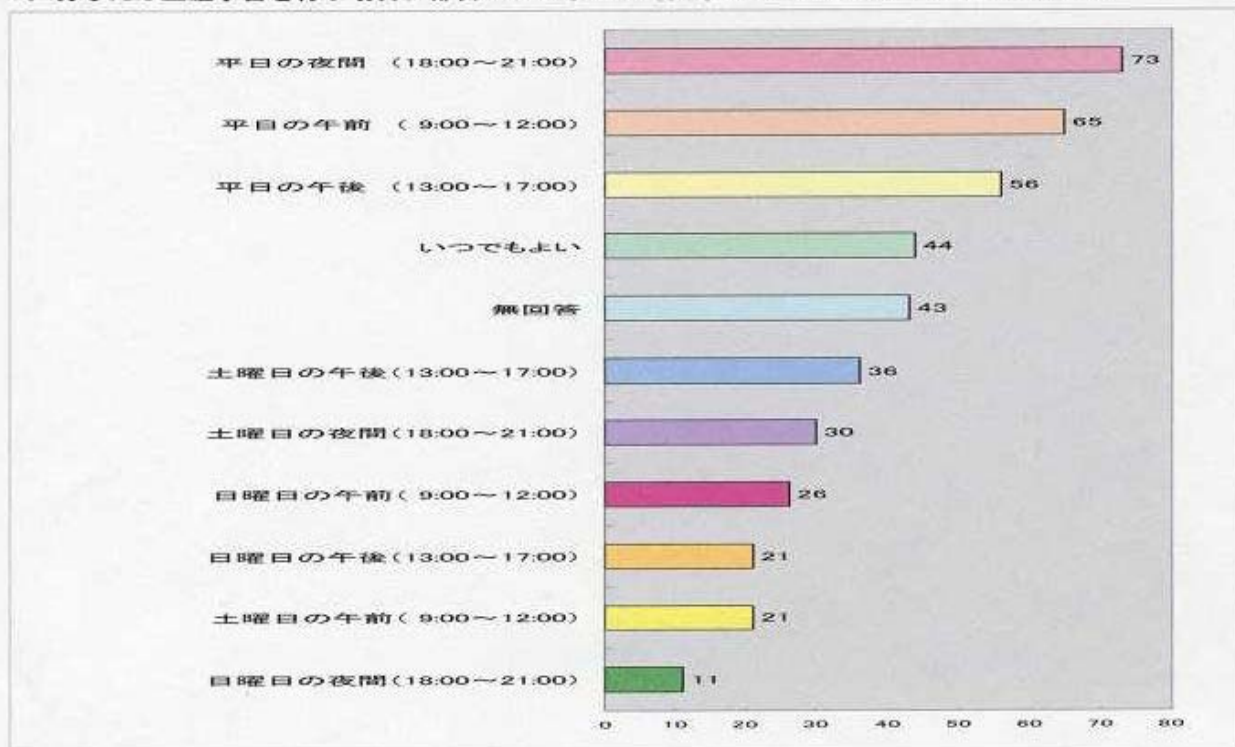
生涯学習を自主的に行っている活動に参加している人や自宅で自主的に行っている人が多い。また、町の施設等で生涯学習を行っているという人は少ない傾向にある。

③「ある」と答えた方にお聞きします。生涯学習を行うために1ヶ月平均どのくらいの経費をかけていますか。（複数の活動を行っている場合は、その合計金額）



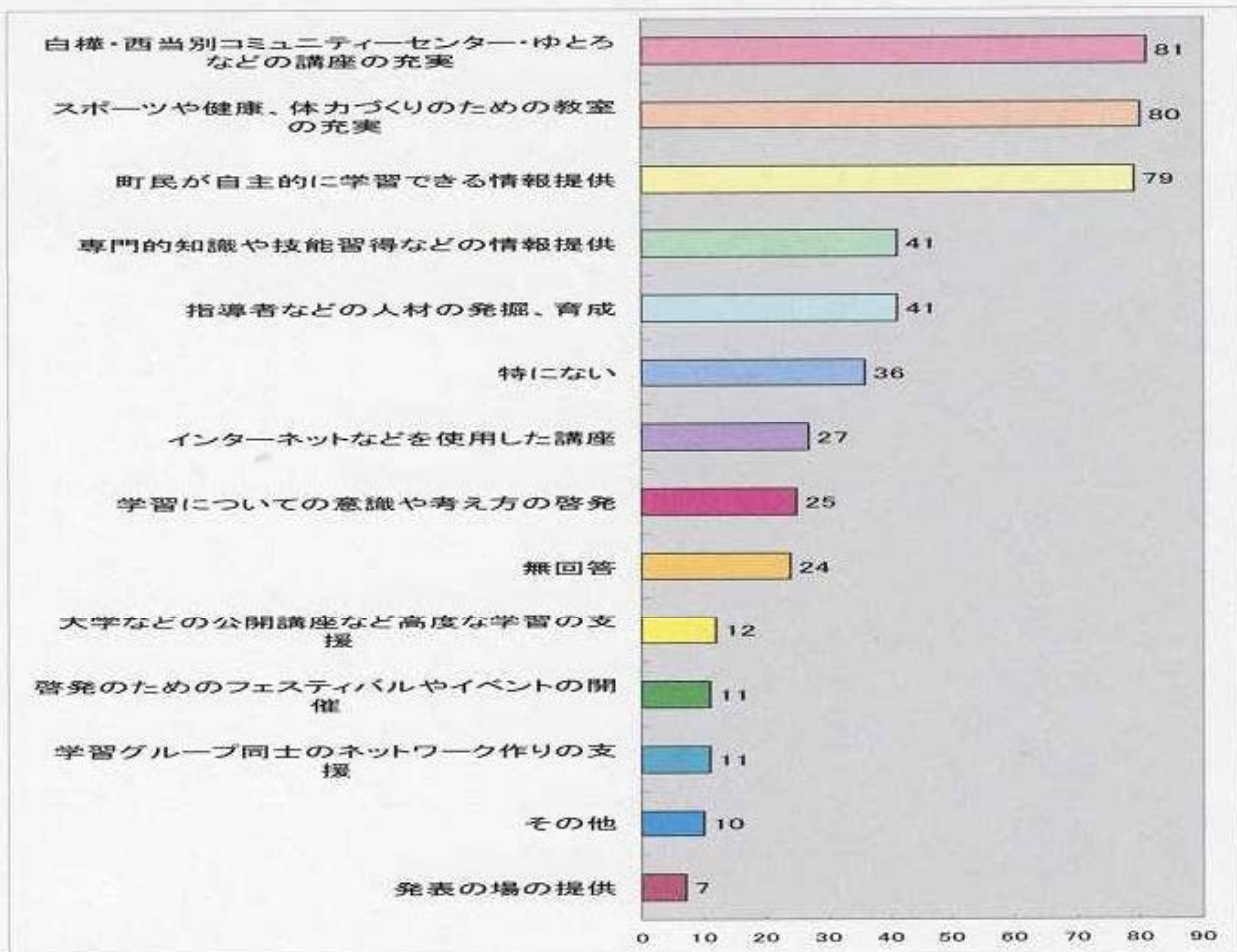
※ 経費はあまりかけない傾向にある。もしくは、かけなくてもよいという環境にいる。

4. あなたは生涯学習を行う場合、都合のよい曜日、時間帯はいつですか。（回答2つ以内）



※ 土日よりも、平日に行うのが、都合が良いと考えている人が多い傾向にある。

5. あなたは町が生涯学習施策を進めていく上で、どのようなことに力を入れて欲しいと思いますか。
(回答2つ以内)



その他（具体的に）

- ①社会保証制度（年金・健保・高齢者医療制度など）や税などに関する講座
- ②図書館の充実、町民人口に対して図書が貸しすぎる。
- ③各町内会館を毎日午前か午後使用する。毎日行ける人もいるし都合の良い曜日だけ行ける人もいるので
- ④町の図書館が他の市町村に比べ劣る。充実した施設と蔵書の増加を望みます。（優秀な町民を育成するためにも）
- ⑤専門家（各分野）の講演を定期的に開催する。
- ⑥生涯学習を実践する上の利用施設費の無料化または値下げ利用料の見直し
- ⑦年代別に老人むけの講座があるとよい⑧自主活動に対する助成（お金、物など）
- ⑨政治と宗教を切りはなした政策のすすめ方についての思想形成についての支援
- ⑩図書の出張貸し出し

※

町の施設等での講座の充実を求めている人が多い。また、スポーツや健康・体力づくりの教室を求めている人が多い傾向にある。また、町民が自主的に学習できる情報を、もっと必要としている傾向にある。

資料 2

当別町生涯学習推進計画策定委員会設置要綱

平成 19 年 12 月 19 日制定
教育委員会訓令第 17 号

(設置)

第 1 条 当別町生涯学習推進計画(以下「計画」という。)の策定に関する専門的な事項の調査、研究及び検討のため、当別町生涯学習推進計画策定委員会(以下「策定委員会」という)を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 策定委員会は、次に掲げる事項を所掌する。
(1) 計画に関わる事項の調査、研究及び検討に関すること。
(2) その他計画策定に関わる必要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 策定委員会は、別表に掲げる委員をもって組織する。
2 策定委員会の委員(以下「委員」という。)は、次の各号に掲げる者の内から教育委員会が委嘱する。
(1) 学識経験のある者
(2) 教育に関する機関・団体等が推薦する者
(3) 教育委員会が行う公募に応じた者
(4) その他必要と認める者

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱の日から平成 21 年 3 月 31 日までとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 策定委員会に委員長及び副委員長各 1 名を置き委員の互選とする。
2 委員長は、策定委員会を代表し、会務を総括し、会議の議長となる。
3 副委員長は、委員長を補佐し、必要に応じその職務を代理する。

(会議)

第 6 条 策定委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集する。
2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第 7 条 策定委員会の会議に関する庶務は、教育委員会事務局において行なう。

(委任)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 20 年 2 月 1 日から施行し、平成 21 年 3 月 31 日限り、その効力を失う。

資料 3

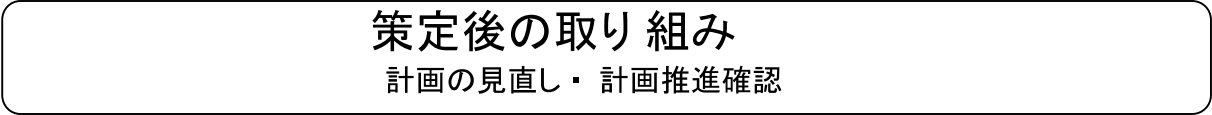
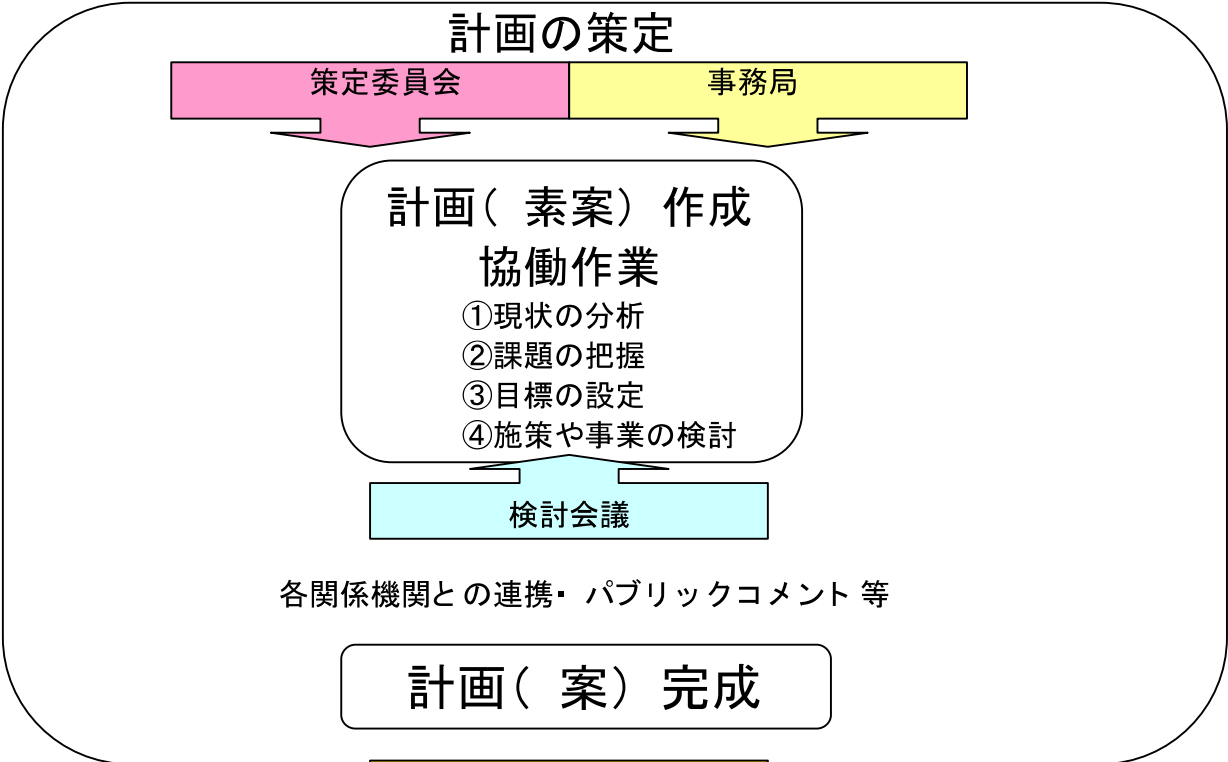
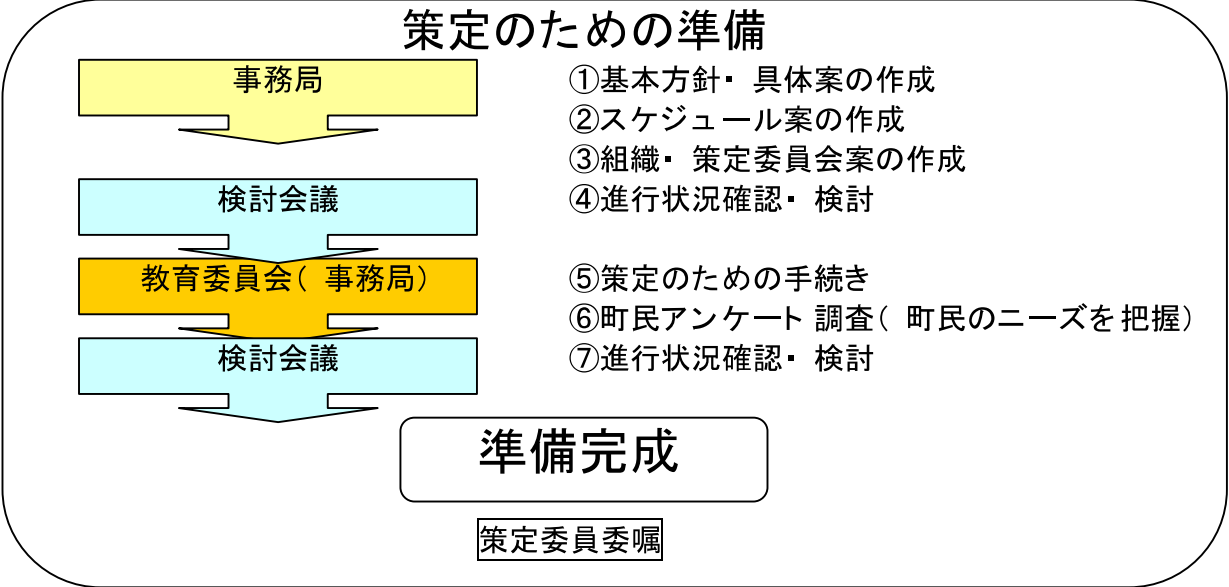
当別町生涯学習推進計画策定委員名簿
任期 平成20年3月18日から平成21年3月31日まで

委員長	岩部 明	副委員長	小西 稔
-----	------	------	------

区 分	氏 名	所属等	備考
学識経験のある者	岩部 明	社会教育委員会(委員長)	
教育に関する機関推薦 (大学関係者)	小田 和明	北海道医療大学薬学部(教授)	
教育に関する機関推薦 (高校関係者)	丸山 博正	北海道当別高等学校(教頭)	
教育に関する機関推薦 (中学校関係者)	小西 稔	当別町校長会(研究部長) (西当別中学校長)	
教育に関する機関推薦 (小学校関係者)	(平成20年3月18日から平成20年10月15日まで)		
	杉本 功	当別町教頭会(調査部長) (弁華別小学校教頭)	
	(平成20年10月16日から平成21年3月31日まで)		
	柴口 史子	当別町教頭会(会長) (当別小学校教頭)	
教育に関する機関推薦 (幼稚園関係者)	浅見 晴宣	当別幼稚園(園長)	
教育に関する団体等推薦 (学校PTA関係者)	長谷部 直樹	当別町PTA連合会(理事) (当別小学校PTA会長)	
教育に関する団体等推薦 (女性団体連絡協議会)	佐藤 しげる	当別町女性団体連絡協議会(監事)	
教育に関する団体等推薦 (子ども会育成連合会)	小川 忠司	当別町子ども会育成連合会(会長)	
教育に関する団体等推薦 (文化協会)	中野 政幸	当別町文化協会(会長)	
教育に関する団体等推薦 (体育・スポーツ関係者)	野口 和之	当別町体育指導委員(委員長)	
その他必要と認める者 (福祉関係者)	佃 由広	当別町社会福祉協議会(副会長)	
教育委員会が行う公募に 応じた者(公募)	小川 信子	家庭教育に興味のある女性の方	
教育委員会が行う公募に 応じた者(公募)	佐藤 弘充	地域づくりに興味のある方	
教育委員会が行う公募に 応じた者(公募)	佐藤 信治	老後の生きがいづくりに興味のある方	

資料 4

計画策定の基本的な流れ



資料 5

当別町生涯学習推進計画策定経過

日	程	会 議 名	内 容
平成19年度 平成20年	1月21日 ～ 2月8日	生涯学習推進計画策定のための町民アンケート調査	無作為に町民1,000人対象
	2月12日 ～ 3月3日	町民アンケート調査集計	調査結果・分析・まとめ
	3月11日	臨時定例教育委員会	策定委員委嘱について
	3月18日	第1回策定委員会	策定委員委嘱交付 策定趣旨・組織確認 委員長・副委員長選出 基本方針・具体案、経過説明 町民アンケート調査結果報告 策定予定スケジュール(案)確認
平成20年度 平成20年	4月16日	第2回策定委員会 (町広報連載開始)	町民意識の課題確認 計画骨子・基本構想方向性確認 学習会(講演等)検討 <ワークショップ型>
	6月12日	第3回策定委員会	基本理念・体系・施策づくり① <ワークショップ型>
	8月2日	第4回策定委員会 生涯学習セミナー(学習会) 町内中高生と地域住民がつどい 意見交換<ワークショップ型> <当別町生涯学習60名セミナー> 地域づくり研修会支援事業 ～異業種交流セミナー～	テーマ「当別町の明日を語るつどい」 ワークショップⅠ 「当別をみつめ、考えるワーク」 ワークショップⅡ 「当別の明日を考え分かち合うワーク」～教育の視点から～ 講師 (札幌国際大学現代社会学部 准教授 佐久間 章氏)
	9月11日	第5回策定委員会	基本理念・体系・施策づくり② 計画素案づくり①
	9月25日	第6回策定委員会	基本理念・体系・施策確認③ 計画素案づくり②
	10月9日	第7回策定委員会	計画素案づくり③
	11月13日	社会教育委員会	計画(素案)策定状況報告
	11月17日	定例教育委員会	計画(素案)策定状況報告
	12月4日	第8回策定委員会	策定検討会議、社会教育委員、教育委員会からの意見のまとめ・報告、確認
	12月25日 ～ 1月29日	パブリックコメント	主要公共施設・インターネット HPなどにおいて計画(案)を公開・意見募集
	2月12日	第9回策定委員会	最終確認、計画(案)完成
	2月18日	定例教育委員会	議案提出
	2月下旬～3月中旬		印刷・製本作業

あ と が き

平成20年3月18日、15名の委員及び事務局8名からなる第3次当別町生涯学習推進計画策定委員会が発足しました。計画策定に向けて1月実施した、当別町民のアンケートを分析し、生涯学習に誰もが気楽に学習をできるように、そしてわかりやすい内容にすることを心がけて、策定委員会を進めてきました。



平成20年8月2日に実施した「当別町の明日を語るつどい」のワークショップに策定委員全員で参加させて頂き、中・高校生を含む20代から各年代70代までの幅広い方々から、当別町の生涯学習への要望や期待を聴取する機会がありました。そこで出された意見内容は、策定委員にとりましてもその後の委員会の話し合いに大いに参考になりました。

全9回の委員会を開催した中で、町民にとって生涯学習を通し、各年代別にどんな活動の内容や実態があり、課題はどんなことがあるかを何度も話し合い、それに関係した資料やグラフ、写真などでも理解を深めました。また、この計画自体を、実際に手にとってみて、文章は簡潔に文字を大きくし、誰もが読みやすくわかりやすい構成になるよう配慮して頂くことも要望しました。さらに、計画の名称のキーワードは、“～川・森・人の恵みのまち～当別”とし、“ふれあいから学びの輪”をテーマとしました。

こうして、今後5年間の計画期間である当別町の生涯学習の方向性を示すことができました。この間、策定委員各位の熱意と事務局の文章整理・編集レイアウトなどの配慮に、深く感銘しています。さらに検討会議からの的確な助言は、全体を引き締めて頂きました。

これを機に、一人で学ぶことの落ち着き、仲間と習う楽しみ、その蓄積が当別町を今まで以上に元気づけ、知的な“まち”にさせていくものと祈念しています。生涯学習とは、自分自身を再生させてくれるものと思います。終わりに、好きな言葉で結びと致します。

「学んで時にこれを習う、また喜ばしきかな。」

平成21年3月

当別町生涯学習推進計画策定委員会
委員長 岩部 明

第3次
—当別町生涯学習推進計画—

発行日 平成21年3月31日
編集 当別町生涯学習推進計画策定委員会
発行 当別町教育委員会
TEL 0133-23-2689



当別町(教育委員会)ホームページ掲載
<http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/kyou-kyouiku.htm>